

金融財政 ビジネス Business

 時事通信社

昭和23年7月8日 第3種郵便物認可
毎週2回 月・木曜日発行(但し祝日を除く)
購読料金 1ヶ月 5,565円(税込)

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8
©時事通信社2009

2009年(平成21年)

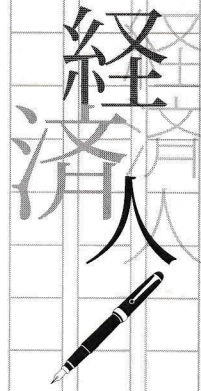
6月4日[木]

第10002号・合併号

時事トップ・コンフィデンシャル+

Contents 6.4

.corner	.page	.title	.writer
巻頭言	3	家計部門の在庫圧縮	北陸銀行頭取 高木繁雄
解説	4	【日本の「国際会計戦略」を考える〈13〉】 IFRSに強まる不協和音—ガラス細工の国際会計基準(中)	神奈川大学 経済学部教授 田中 弘
column 経済人	5	インフルエンザ・リスク過敏反応症候群?	龍谷大学経済学部教授 竹中正治
column 照一隅	7	定額給付金の行方	一湖
解説	12	日経平均、夏場に向け1万円超へ—市場予測(株式)	メリルリンチ・ストラテジスト 菊地正俊
News Eye	16	株安と不良債権で連結純損失2569億円 統合後初の赤字—三菱UFJの09年3月期決算	
column 藤原作弥のカラム・コラム	17	速水さんのこと(補遺)	
経済論説読みある記	18	霞が関の「焼け太り」を警戒	時事総研客員研究員 中山恒彦
column グランドスタンド	20	激しさ増す選手争奪戦	スポーツジャーナリスト 谷口源太郎
探針(Probe)	21	麻生政権の乏しい危機意識	
異聞遠聞	22	過激化する「ワイン・テロリズム」	
News Eye	23	注意要する世界経済回復後の変化 小島三菱商事社長、監査役協会全国会議で講演	
経済・先読みINDEX	24	【ケース・シラー米住宅価格指数先物】 下落で楽観ムードに冷や水	MU投資顧問シニアストラテジスト 森川 央
キーパーソン		産業革新機構(11) マカオ(17) インドネシア(20)	



龍谷大学経済学部教授
竹中正治

インフルエンザ・リスク過敏反応症候群？

豚インフルエンザで、世界中大騒ぎである。これまで人間には感染しなかった豚のインフルエンザが人に感染し、しかも人から人へ感染するウィルスに変異した新型らしいという事で、その感染力、感染した場合の死亡率など当初は未知であった。従って、世界的な大流行（パンデミック）の危険性を想定した対処が、疫学的に必要な処置であったことは確かだ。

しかし、当初メキシコで「1000人感染し、1000人死亡」、つまり死亡率10%と報道されたことが誤りであり、感染力も死亡率も通常の季節性インフルエンザとあまり変わらない事情が明らかになりつつある。にもかかわらず、マスコミや世間の大騒ぎが続く、街はマスクをしている

人であふれている。これはもはや「インフルエンザ・リスク過敏反応症候群」とでも呼ぶべき現象ではなからうか。

世界保健機関（WHO）の報告によると、5月21日時点で確認された豚インフルエンザの感染者数は世界で1万1034人。うち死亡者数が85人（このうちメキシコが75人）である。

一方で、米CNNテレビの報道（4月30日、ニューヨークのモンテフィオーレ医療センターのブライアン・キュリー博士）によると、米国では通常の季節性インフルエンザで年間平均3万6000人が死亡しているそう。日本でも年間数百人が死んでいる。死亡する人の多くは、抵抗力の弱くなった高齢者などである。

BSE（牛海綿状脳症）の時も、同様の過剰反応があった。日本で初めてBSEに感染した牛が発見されたと報じられた時、スーパーで牛肉が売れなくなり、焼肉屋では閑古鳥が鳴いた。「騒ぎ過ぎだ」と感じた筆者は、元来天の邪鬼のため「今こそ焼肉屋に行くぞ！」と言って部下を連れ、何日も前から予約しないと入れない、と当時いわれていた超人気の焼肉店で、宴会を楽しんだ。

近年盛んになった行動経済学（行動ファイナンス）の研究は、人間のさまざまな認知上、選択上のバイアス（歪み、合理性からの乖離）を明らかにしている。それによると、極めてその実現可能性が低い場合は、人間は危険（損失の可能性）に対して必要以上に回避的になり、逆に利得の可能性に対しては非合理的な選択を示す。

例えば、限りなくゼロに近いリスクであるにもかかわらず、BSE報道で牛肉を避ける。同様に、確率的に極めて低いチャンスで割に合わない

いにもかかわらず、宝くじを買う人が絶えない。これらは、こうしたバイアスに基づく行動であると考えられる。

さらに、こうした認知上のバイアスは社会・組織的なバイアスによってしばしば増幅される、と筆者は思う。今回の豚インフルエンザの危険性が季節性の通常型と大差ないにもかかわらず「世間がこれだけ大騒ぎをしているのに対策を講じなかったのか」と非難されることを恐れ、どの組織も「万全の対策」を取ることになる。

豚インフルエンザにかかわる政府関係者や学校の教師などに関する報道を見ると、世間やメディアの関心が高じて「万全の対策を取らなくてはならない」という過度な緊張を強いられるよう。その一方で、通常のインフルエンザによって亡くなっていく多くの人には、ほとんど何の関心も払われない。誠に奇妙なことだ。